

## 名画に挑戦！

### —初年次教育における協同制作の取り組み—

辻本 恵

*TSUJIMOTO Megumi*

本学では本年度より初年次教育が卒業必修科目として設定された。初年次教育とは保育者養成校として、大学での学びを充実させるための主体的な学習態度や技術を身につけ、学びの礎となる人間関係や保育者として必要な一般常識などの獲得を目的とし設定されたものである。その授業の一環として、「名画に挑戦！」と題し、協力し合って一つの作品を完成させる模写による協同制作を行った。

本稿では本年度に実践した「名画に挑戦！」の授業について、その授業内容や指導方法を報告するとともに、事後の振り返りアンケートから学生が授業から得た学びについて、授業実践報告をしたい。

キーワード：初年次教育、保育者養成、協同制作

#### 1. はじめに

これまで本学の初年次教育は2019年に「ワタシノミライ」として始まり、新入生に対しさらに充実した内容になるよう2020年には初年次教育として位置づけ、大学生活への円滑な移行と今後の学習への基盤を学ぶ授業を設定していたが新型コロナウイルスの影響により未開講となった。2021年は対面授業と遠隔授業を併用するなどの対策をとり拡大防止に努めながら、授業を行った。しかし単位認定が選択という科目の履修条件等から受講生が少ないという実態があった。学修事項及びその意義の重要性から、科目の見直しを行い初年次教育は2022年度より卒業必修単位となり、1年次にすべての学生が受講することとなった。

教授内容を再編するにあたって、拙者を含む3名の教

員によりプロジェクトチームが編成され、初年次教育のシラバスを作成することとなった。

近年多くの大学において、初年次教育として学科の特色を生かした内容を展開している。本学は保育者養成校であり、保育現場の必須技能である「音楽」「体育」「造形」の基本3技能を中心とした「専門教育」をベースにカリキュラムが組まれている。初年次教育でもこの特色を活かし造形活動を通した授業を設定する。

文部科学省中央教育審議会大学分科会制度・教育部会(2008)「学士課程教育の構築に向けて(答申)」の中で初年次教育とは「高等学校や他大学からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく、主に新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム」あるいは「初年次学生が大学生となることを支援するプログラム」として説明している。また鈴木・松本(2022)は「大学の早い

段階ですべての学生が能動的・主体的に学修と向き合えるよう、初年次教育において動機づけと意識の改善を働きかけていくこと」が必要であると述べている。これらを踏まえて保育者養成校である本学の初年次教育においては学生が本学で学ぶ意義・目的について考え、「大学での学びを充実させるため必要となる主体的な学習態度や技術を身につけ、併せて、学びの礎となる人間関係醸成や保育者として必要な一般常識、生活態度の獲得を目指す。」を初年次教育ポリシーとし、学習意欲と主体的な学びの基礎作りをすることで、一人一人の学生生活が充実したものとなるよう「心を育てる」をテーマに全体の授業計画を立てた。

以下に2022年度の初年次教育の「授業のテーマと概要」、「到達目標」を掲載する。

授業のテーマと概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時の不安を解消し、仲間と共に学んでいく場であることを認識する。</li> <li>・レポートの書き方、論文の書き方、文献資料検索の方法を学ぶ。</li> <li>・大学生としてのマナー、常識・生活態度を身につける。</li> <li>・夢に向かって進む意欲を確立する。</li> </ul>
到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者として必要とされる社会性を習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。</li> <li>2. 短期大学での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、学習に生かすことができる。</li> <li>3. チームで協調して課題を解決することができる。</li> <li>4. 将来の夢を自ら構築することができる。</li> </ol>

本稿で取り上げる「名画に挑戦！」は上記に示した到達目標3.のチームで協調して課題を解決できる に焦点を当てることとし、「仲間と共に学んでいく場であることを認識すること」を授業テーマとして実践した。

## 2. 題材設定

「名画に挑戦！」はピカソの「泣く女」の模写をクラス全員で完成させる協同制作を行う活動である。

1973年に制作された「泣く女」は、赤・青・黄・黒など鮮やかな色合いと強い線が特徴の油彩画である。このような描写の特徴は、クレパスのやわらかくのびがよいこと、画面の上で混色ができ鮮やかで美しい。また重ね塗り、厚塗りができること、クレパス特有のやわらかさがマチエールになって油絵のような表現が可能である（サクラクレパスHP）といった特質を生かすことができる。

学生は入学後保育士資格必修科目として造形表現Ⅰを初年次教育と並行して受講している。造形表現Ⅰでは主な活動として子どもの造形活動で用いられる様々な材料の教材研究を行っている。クレパスはその太さや描き心地のよさなどから子どもの描画活動にふさわしい材料として使用されることが多いため造形表現Ⅰでも使用頻度の高い材料であり、学生はすでにクレパスの特質を生かした造形活動を何度か体験している。

また初年次教育で与えられた1コマ90分という時間の中ですぐに取り組むことができる特質を持ったクレパスは適していると考えられる。

さらに今回の模写は1人の学生が1枚の絵の1部分を小さな紙に描く。それぞれに描いた絵を持ち寄って1つの作品に仕上げていく。クラス全員が互いに助け合い、協力し完成させていくことは円滑な人間関係の構築と主体的な学びの基礎作りが期待できると考えた。そこでピカソの「泣く女」をモチーフとし、各学生がそれぞれのパートを担当、最後に全員で自クラスの「泣く女」に仕上げるといった協同制作を取り上げることとした。

その活動を通して学生が何を感じ、学びとったのかを振り返りアンケートの結果から分析し、初年次教育における協同制作について考えてみたい。

## 3.方法と制作過程

対象者

本学こども学科「初年次教育」受講者 126名

実施期間

2022年5月11日～5月25日

実施内容

準備物：ピカソ「泣く女」のコピーを36枚に分割した

もの、クレパス、16切・32切画用紙

以下に「名画に挑戦！」の過程を示すとともに学生の反応を記す。

### 1) 32切画用紙各1枚を学生に1枚ずつ配布する。クレパスで画用紙に自由に絵や模様を描く (5分)

通常授業と違い、他のクラスとの合同授業で教室も大きく学生数も多い。慣れない環境の中での緊張感をほぐし造形活動に向かうために「ミッション1」として、今までどのようなクレパスの使い方や工夫があったのかを思い出しながら好きな色で自由に点や線を描いたり面を塗ったりするよう伝えた。

### 2) 36枚に分割した「泣く女」のコピーと16切画用紙を学生に1枚ずつ配布する。

クラスごとに1枚の絵を36枚に等分に分割したものを無作為に配布していく。あらかじめ分割されたコピーの裏に番号をふっておき、その番号を画用紙の裏に記入しておく。

ここでは学生はいったい何が始まるのか、この紙をどうするのかといった不安げな様子やこの絵を描くのだなとワクワクしている姿が見られた。

### 3) コピーの絵を拡大して画用紙に模写する (40分)

「ミッション2」として16切の画用紙にコピーの絵をクレパスの使い方を工夫しながら拡大して描くことを説明した。

教員が実際に模写を行ってやり方の例を示すと、自分なりに模写の方法を考えて何本も引かれた線（実際には髪の毛）を数えたり、手で幅を測ったりコピーを折って角度などを確かめるなど工夫して写していく姿が見られた。

「難しい」「無理」などの声をあげた、とまどいの見られる学生には声掛けを行う。このとき隣に座っている学生にも一緒に見てもらい、互いにアドバイスしあえるような関係づくりを心がけるよう伝えるとともに、学生自身が教材への関心を深められるようにした。

形だけでなく、色にも注意してよく見ることを伝えると色の重なりぐあいや1本の線でも筆致が違うことが見

えてくることや、同じ色でもそれぞれに感じ方が違い、表現の仕方も変わってくることなど、学生同士での会話の中からお互いの気づきを確かめ合う様子がうかがえた。またぼかしやスクラッチなど様々な技法を活用する姿もあった。

学びあい、教えあう姿勢を協力と捉えて、こちらから声をかけることはせず、見守るようにしている。

### 4) 出来上がった画用紙を裏向けて順番通りに並べてつなげていく。

仕上がった学生の1枚1枚の作品をつなげるとピカソの作品「泣く女」の模写作品になることを告げる。

すでに予測していた学生やびっくりした様子の学生もいる。自分の描いた絵がどの部分になるのか、隣の作品とぴったり合うのか不安げな様子も見られた。

「ミッション3」はクラスごとに協力して1枚の絵に仕上げていく過程である。画用紙を裏返して番号順に並べてテープでつなげていく作業である。すべてのクラスにおいていくつかのパーツに分けてつなぎ、最後に1枚にする方法で絵をつないでいた。貼り合わせるときにはお互いの番号を見せあって、「～番の人は？」や「〇〇さんはここ」など指示する学生や作業がしやすいようにテープを先に切っておく学生もおり、その姿を見てほかの学生も自らできることを考え行動し、協調することでクラスの輪の広がりが感じられる場面であった。普段はあまり話さないクラスメイトとも会話が進んでいる様子である。どんなふうになら仕上がっているのか早くつなぎ合わせて見てみたいというワクワク感やドキドキ感が感じられ、協力することを一層強めているようである。

## 5) 鑑賞

クラスごとに仕上がった作品を掲示して鑑賞する。掲示したと同時にスマートフォンでの撮影が始まった。本来であれば注意するところであるが、作品への興味・関心への表れであるにとらえ鑑賞の一環とした。

作品の近くへきて「ここはうまくつながっている。」「つながってなくても遠くから見ると、それらしく見える。」「ここすごいね、誰が描いたの？」など友達同士で感想を述べている姿も見受けられた。

「ミッション4」は各クラス数名の代表が絵を見て一

言コメントする。多かったのは「すごい」「面白い」「素晴らしい」など絵から強く感じた印象のコメントや「芸術的」「大きい」「独特な顔」「カラフル」など色や大きさ、形といった造形的要素に関するコメントであった。ほとんどが肯定的な発言であり、出来上がったものから達成感や満足感を得ていることがうかがえる。

授業終了後には作品の周りに集まってそれぞれの表現の違いをじっくり鑑賞する姿もあった。

#### 4. 振り返りアンケートの記述

「名画に挑戦！」の活動を振り返り、以下のような記述を求めた。

- ・体験して学んだこと、気づいたこと、感想など

振り返りアンケートを実施するにあたり倫理的配慮として研究の趣旨や個人情報への順守などを説明し承認を得、105名の記述内容を対象に分析を行った。

分析にはユーザーローカルテキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp>) を用い、記述内容から頻出語を抽出し、共起キーワード図を作成した。(8. 付録を参照)

共起キーワード図とは文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図で、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画される。

アンケートの共起キーワード図には絵を中心とした語句のネットワークが7項目形成された。そのうち絵を描くーすごいー思う、絵ーわかるー合わせるー感動、絵ーつなげるー36枚ー集まる、絵ー面白いークラスー違う、の4項目に強いつながりがみられた。また、つながりは弱い、違うー見えるー色ー混ぜる、1枚ー画用紙ーつくー想像、1つー作品ー完成、の語句の集まりも見られた。これら絵を中心としたネットワークから①すごい絵が描けたと思う②36枚の絵を集めつなぎ合わせた③絵を合わせたらどのような絵かわかって感動した④クラスによる絵の違いが面白い⑤混ぜ方によって色の見え方が違う⑥1枚の画用紙に描いた絵をつなげるなんて想像もつかなかった⑦1つの作品が完成した、と推測した。

その他の語句では、クレパスー薄いー濃いー混ぜる、協力ー楽しい、それぞれー個性、良いー細かい、紙ー小さいー大きい、作るー難しいー楽しさ、うまいーつな

る、の共起がみられた。これらは⑧クレパスは薄く、濃く描いたり、混ぜたりができる⑨協力することは楽しい⑩それぞれに個性がある⑪細かいところが良い⑫小さい紙が大きくなった⑬作ることは難しいが楽しさもある⑭うまくなつた、のように読み取ることができる。これらの内容をカテゴリー別に分けたところ以下の表に示すA (⑤、⑧、⑩、⑪、⑬) B (③、④、⑥、⑨) C (①、②、⑦、⑫、⑭) の3つに分類することができた。

表1

A	教材 (クレパス) や造形に関する学び・気づき
B	1枚の絵に仕上げることで得られる学び・気づき
C	完成作品についての感想

表1に示した3カテゴリーに書かれた内容を、原文を損ねない程度に要約したものを以下に示す。

#### A 教材 (クレパス) や造形に関する学び・気づき

- ・色を混ぜて作ることによって新しい色を作り出すことができる
- ・クレパスは薄く塗ったり濃く塗ったり様々な表現が可能である
- ・対象をよく見ることでたくさんの色が使われていることに気づいた
- ・人それぞれに表現の仕方があり個性がある
- ・明るい色から塗ったほうが濁った色になりにくい
- ・拡大して描くときはバランスに注意すべき
- ・クレパスは塗り込むことで油絵のような表現ができる

#### B 1枚の絵に仕上げることで得られる学び・気づき

- ・自分が描いたのは一部だがみんなの絵を合わせると大きな一つの絵になって達成感があった
- ・このような経験がなかったので新鮮な気持ちになることができた
- ・団結力が生まれクラスの仲が深まった
- ・皆で力を合わせて作り上げることの楽しさ、面白さ、うれしさ
- ・みんなで一つの物を作ることは素晴らしい
- ・同じ絵なのにクラスによって全く違う絵になっているところが面白い



## C 完成作品についての感想

- ・ぴったり合っているところ、ずれているところ、どちらも面白い
- ・つなぎ合わせたとき、きれいに仕上がっていて感動した
- ・完成した絵がすごくてびっくりした

振り返りアンケートとともに全員に「作品を見て一言！」を記述させたところ、「みんなよく見て描いている」や「個性的」「同じ絵（の部分）を見て描いているのにそれぞれ個性がある」「同じ絵を描いているのにクラスによって違う」「人それぞれ違うのに1つの絵になるところが面白い」など、学生個人やクラスそれぞれの表現に関する気づきや「協力感を感じた」というコメントなど、完成に至るまでのプロセスの中で感じたことへの記述の傾向がみられた。

## 5. 総合考察

今回の「名画に挑戦！」は「造形」部分と「協同」部分の2つの活動に分けて授業構成をし、学生自身が「今、自分が何をしようとしているのか」を明確にできるように試みた。ほとんどの学生が表1の内容が示すような「造形」と「協同」両面での気づきを記しており、それぞれの活動への積極的な取り組みがうかがえる。特に「協力」「楽しい」「クラス」「違う」「面白い」などの言葉の表出からは表現の多様性を認めながら互いに協力することへの理解が読み取れる。

振り返りアンケートに「みんな協力して1つの作品を作り上げたことに意味があった。」と記述した学生の意図からは協同制作が、大学が仲間と共に学んでいく場であることへの気づきのきっかけとなることを示唆している。また、「番号順に並べることは仲間を探して森の中から抜け出して友達を見つけた気分だった。」の記述内容からは仲間とともに問題を解決しようとする態度が読み取れ、保育者として必要とされる社会性の習得の一手ともなり得ると言えよう。

こうした振り返りアンケートの記述から、協同制作「名画に挑戦！」の授業は初年次教育の到達目標にそったものであり、一定の成果が得られたと思われる。

## 6. おわりに

今回の授業を通して、クラス全員で一つの絵に仕上げるといったクラスの中での自身の強い使命感が、目的意識を高めるとともに仲間意識を高め、主体的な活動を生むきっかけとなることが確認できた。さらに模写をすることが対象をじっくり観察し自分なりの表現を試みる活動となり、教材研究を深めるために有効かつ表現の多様性に気づく機会となることが分かった。

「名画に挑戦！」の設定は造形的な知識や技術の育成だけでなく、大学が仲間と共に学んでいく場であることを認識し、クラスで協調して課題を解決できる力を主体的に培うことを目的としていることは前述のとおりであるが、90分という短い時間の中でも主体性を発揮しクラス全員で完成までやり遂げたことが高い満足度、達成感につながったと考えられる。このような満足感や達成感を学生自身が授業で体験することが楽しく大学に来られる工夫の一つとなるのではないだろうか。

また絵という形が残るものであったがゆえに協同することを強く意識したとも言える。残念なのはそれぞれの個性や、クラス全体の絵としても思いもよらない面白さが出た完成作品を紙面上に載せることができないことである。これは著作権上の問題が発生するためであるが、今回のような方法を用いるのであれば次回は作品を選択する際に考慮すべき点として重要である。

今後は本学の特色を活かしつつ、さらに学生の主体的な学びを支え、円滑な人間関係を築くことのできる効果的な初年次教育授業を提供できるように実践を重ねながら検討していきたい。

## 7. 引用文献・参考文献

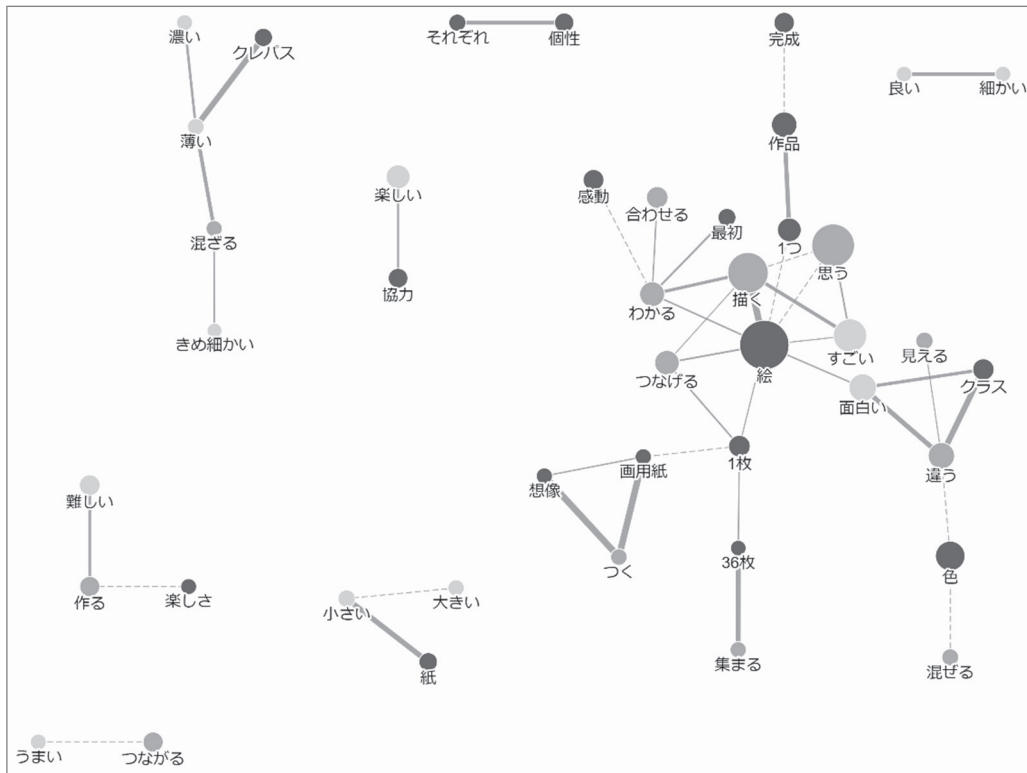
- 文部科学省中央教育審議会大学分科会制度・教育部会 (2008) 「学士課程教育の構築に向けて (答申)」
- 鈴木 崇夫・松本 美紀 (2022) 「「用語の定義を調べる」過程のふりかえりから自律的学修を促す初年次教育の試みーアクティブラーニングの効果に着目してー」愛知淑徳大学初年次教育研究年報7
- 鷹木 朗 (2018) 「アクティブ・ラーニングで色彩の扉を開く」京都市立芸術大学美術教育研究会第378回研究センター例会
- ユーザーローカルテキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp>)

8. 付録

頻出語

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
絵	120	きれい	17	皆	7
思う	78	難しい	17	混ぜる	7
描く	72	つながる	16	分かる	7
できる	40	作る	16	画用紙	6
色	52	紙	14	見本	6
すごい	52	クレパス	13	きれいな	6
作品	38	塗る	13	想像	6
面白い	36	最初	12	つく	6
違う	33	いい	11	いく	6
1つ	32	1人1人	9	薄い	6
わかる	29	ピカソ	9	芸術	5
つなげる	28	それぞれ	9	楽しさ	5
楽しい	26	ずれる	9	びっくり	5
1枚	25	よい	9	1人	5
クラス	24	達成感	8	混ざる	5
感動	22	最後	8	集まる	5
完成	21	感じる	8	見る	5
合わせる	20	見える	8	組み合わせる	4
協力	18	小さい	8	濃い	4
個性	17	はじめ	7	うれしい	4

共起キーワード図



---

### ピアスーパーバイザーからのコメント

本稿は初年次教育における学生の主体的な学びを通して、新入生同士の関係性を構築するために、「造形」と「協同」の活動を用いた体験型チームビルディングの実践報告である。事後の学生の振り返りの分析では、一つの作品の模写をクラス全員で完成させる共同制作から、学生同士が表現の多様性を認めつつ、互いに協力することへの気づきや大切さを考察している。保育者養成に求められる協同性や円滑な人間関係の育成に、本実践報告の知見が共有されることを願っている。(担当：川谷和子)